

## 東北大学新聞(248号)

号	248
発行年	1994-05-18
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/56010">http://hdl.handle.net/10097/56010</a>



理・工学部では、学部講座を大学院大講座に改組・改変すると共に、大学院に教育・研究の重点を置いた大学院拡充策を実施することを決定し、今春から段階的に施行している。教養部廃止に伴う学部教育の改革と並行したものが、本学での「大学院重点化」は初めてのケースとなる。他大学では東京大、京都大が既に一部の研究科で重点化を実施している。

は今年度の予算成立が大幅に遅れているため、六月頃から正規に実施されることとなる予定と定めて、これに続いて来年度は機械・知能系、化学・バイオ系の専攻で大学院重点化がなされ、九六年度に材料物性系、人間環境系の専攻で重点化がなされて工学部全体の足並みが揃うという。

外国人向けに定員枠を設けての特別入試を春・秋の年二回

となっていた。学科によっては卒業研究のみどころもできたという。このため四年次にはかなりゆとりが生まれたが、これは三年次終了後の「飛び級」をしやすいとする意味合いもあったという。これは大学院進学率の高さを反映しているものである。

工学研究科の改革の目玉は第一に、修士課程での院試多様化があげられる。今年度から大学院重点化がなされた物理・情報系では、他大学出身者対象の推薦入試を設けると共に（表1参照）社会人・外国人向けに定員枠を設けての特別入試を春・秋の年二回

今回の大学院重点化は、学合。これにより院生の定員が従来より増え、一講座当たりの教授、助教授の枠も増やされる。大学院所属の大講座、授三三四、助教授三三四、教授三三四へ引き上げて、教は学部学生だけを対象とす。これをこれまでの学部所属から、また、大学院生だけを対象とした小講座も幾つか設置される。これによって現行の十七専ら、同時に学部では学科を統合している。理学部の場合、専攻・巨十三講座が十七専

昨年までの段階では、六年一貫教育に重点が置かれていたが、現在の段階では、従来以上に他大学の人材を求めようとして、数年後に始まる学部卒業者の減少による上級と共に、選択科目を増やすなどカリキュラムを多様化する方針である。これは、では他大学の出身者が二、三人材の育成」を目的としている割と多かったが(表2参照)、

と大学院修課程、年  
わたせた。六年一貫教育を  
指すものも報じられた。  
北新報九年一月一日  
その後、微妙な方向研  
究された。工学研究  
令、改革のコンセプト  
る「開かれた大学院」  
づけ、他大学・社会人  
の特別試験を実施する  
ため、学内からの一貫  
したし弊害なるため色  
色彩は薄まっている。

工学研究では、今  
ら物理・情報系の専攻  
院重点化を実施され

間を合 逆に学内進学者に対する一貫  
「」を目 教育の色彩は薄まっている。  
が(河 院での教育が学部教育に基礎  
院)を置 いているという意味でされ  
換がな 「貫教育」のみが堅持され  
の場の こととなる。工学部では約  
七割の 学生が大学院に進学す  
と位置 することから、一貫教育の性格  
が強まるものと予想されたが、  
その 基礎共通科目を教える学部と  
選択科目のウェイトの高い大  
学と 学院との役割分担は変わらな  
いようである。

年度か 学部段階では、昨年度から  
で大学 の新カリキュラムの結果、半  
年ずつ 授業が前倒しされる形

専攻名	数
電気通信工学	3
電子工学	2
応用物理学	2

- ・理学部院重点化
- ・退官教官のことば②
- ・バイト体験記

		修士課程	博士課程
定 員		3 3 5	1 9 4
志願者数		8 0 0	
進 学 者 数	大学院卒	5 2 8	4 2
	他大学卒	2 2	6
	その他	1 9	2 8

# 教養部廃止でも 昨年と変わらず

九四年度の前期課程および進学課程修了者数と留学者数が三月十日に教養部掲示板に発表された。二千六百九人が十の学部に進学し、三年生として新たなスタートを切った。教養部の廃止にともない、留学者数は四百四十五人、その割合は、昨年を三ポイント上回る十四・六パーセントだった(表参照)。

ともあって、留学者数の減少が予想されていたが、実際には教育・経済・医・薬・工の各学部で昨年に上回り、全体数も昨年に上回った。

留学者数は、昨年同様、『全学教育科目』には、これを従来の一般教養科目に読み替えるなどの措置

学部	在籍者数	修了者数	總修数	留年率%	卒業留年%
文	264	232	32	12.1	16.7
教育	97	89	8	8.2	5.8
法	302	283	19	6.3	14.3
經濟	312	268	44	14.1	11.2
理	429	356	73	17.0	17.5
医	107	103	4	3.7	1.0
齒	64	60	4	6.3	8.0
藥	82	75	7	8.5	4.3
工	1196	967	229	19.1	16.7
農	201	176	25	12.4	13.5
計	3054	2609	445	14.6	14.3

980-771

四月一日(金)から、本学 陸地区のみで、農学部  
に専用の郵便番号が与えられ、核理学研究所などは従  
た。番号は「980-77」の番号のままである。

お詫び

と訂正

郵政省は八十年代から大口の郵便受け取り先には専用の郵便番号を付しているが、本学も全部局を含めた郵便物は膨大な量に上る為、今回の措置となった。

尚、専用番号が付せられるのは片平・川内・青葉山・星の誤りでした。ここに訂正すると共に深くお詫びします。

本紙二四七号（四月十九日発行）一面で、補導委員会が「二月三日」による説明会が「二月三日」に行なわれたと報じましたが、これは「二月二日から三日」

と訂正

# 『文化遺産の継承を』 '94 入学式

## 大学入学式

本学の入学式が六日午前十時、市体育館で行われ、十学部の時半から、仙台市富沢の仙台二六六十九人と大学院の千



## 理学部大学院重点化

理学部も工学部と同様に、飛び級を見越して三年次まで予算請求は全て学部で行われ、既に現状で、大学院に教育研究の重点が移っている。学生数も、学部と大学院ではほぼ同

理学部も工学部と同様に、飛び級を見越して三年次まで予算請求は全て学部で行われ、既に現状で、大学院に教育研究の重点が移っている。学生数も、学部と大学院ではほぼ同... (text continues with details of the department's focus on graduate studies and curriculum changes)

表 理学研究科の改組

改組前の専攻	修士課程	博士課程	改組後の専攻	修士課程	博士課程
数学専攻	16	8	数学専攻	38	18
物理学専攻			物理学専攻	88	43
物理学第二専攻	35	12			
原子物理学専攻					
天文学専攻	4	1	天文学専攻	9	4
地球物理学専攻	11	8	地球物理学専攻	25	12
化学専攻	37	23	化学専攻	66	32
化学第二専攻					
生物学専攻	12	6	生物学専攻	25	12
地学専攻	14	6	地学専攻	32	15

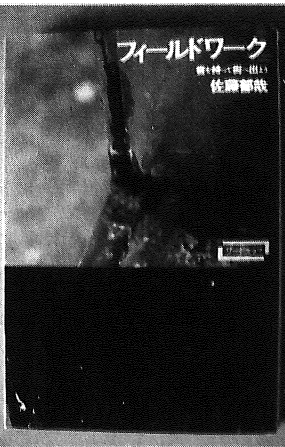
## 生協食堂 輸入米導入

国産米が底をついたことにより、定額のもので、仕入れ価格がともなう。東北大学協会の各変動次第、五円単位で変更す... (text continues with details of the rice price increase and the university's response)

ライス価格の変化

	変更前	変更後
大中小	160 125 95 70	140 110 85 65
大中小	275 230 180	255 210 165

## 書 評 「フィールドワーク」



後藤郁哉著／新曜社

社会はそれぞれ異なる文化、習慣を持ち、またその影響を受けながら多様な諸現象を生み出す。それらが複合的に作用し、共通に見られる諸現象である場合、これを一般化・理論化することが多く、異なる社会がその一般化した法則を吸収すること、その法則は普及する。その法則化の過程は、社会学・社会学・社会学の中で生活すること、表面または性格を持つ文章」と言える。この新研究の全体像を把握し、その重要性を認識するための大きな手助けとなる。

あるいは人間存在という複雑な社会現象を抽象化・簡略化する対象を丸ごと捉えようとする「アプローチ」として定義している。ここで著者は、フィールドワークにおいて偏狭な視点からのアプローチにならないよう警告している。研究調査は、大まかに分けて、限られた範囲の対象について深く詳しく分析・記述する定性的調査



理学部 斎藤 尚生 教授

学を卒業（Commencement）させて頂いたことになる。しかし、自分では卒業できたとは到底思えないので、また大学一年に入り直して、川内キャンパスまで講義を聴いていたい。ひと月前までは色々な人から聞かれた。「四月からどうなさいますか」「大学一年になります」例外なしに相講義は実に新鮮に感じられた。年後の今、実に大事な研究者生になります」

私が約半世紀前に教養部の系の講義は、その後二つの点で大役役に立った。一つは宇宙地球物理という専門に進んだ時から今までの四十年間、何

た時、学生便覧の中に並んでいた講義題目の中から、内容が予測できないものや、自分が予て苦手な講義を選択していく力を与え続けてきたこと

鬼仏表と言えば、鬼の講と義ばかり選んで受講したこと

もう一つは、その時講義をしてお下った先生方に、四十

## 大学・学生に残すことば②

てきました。それから滿二十訴訟法は裁判のやり方を定め  
てきました。この春定年に達するまでの法律ですが、裁判や法廷は  
で、法学部で民事訴訟法や執行法や破産法の講義をしてくさ  
た訳です。そういう講義を通じては、学生諸君の理解しや  
びて、学生諸君が大変熱心にすいように工夫をこらしてい  
席して、静かにしかも非常に際、三ヶ月先生は、大学の

# 法学部での講義とゼミの思い出

法学部 林屋礼二教授

聴講してくれたことは、良い思い出となっています。

例えば、私にとっての最後の講義の年となった昨年度は、前期で民事訴訟法の講義をしました。民事訴訟法の略称である「民訴」は一般に「眼」とあだなされている位、えたり、色々な裁判にまつわ

ここで私は「訴えの提起」から「判決」までの裁判の流れに沿いながら、なるべく分かりやすく訴訟の原理を説明すると共に、難しいテクニカルタムは日常用語に置き換える。切りの話でできて、誠に有難

経済学の菊田先生は、毎週二回、きちんと中央図書館の研究室にいられて、数日研究に打ち込んでおられる。私も時々机を並べさせて頂いている。「四十年間かかってようやく序論が完成しました。今本論文選ばなかった。」

受講するのに、学士入學と月に入ってから受けた講義はいう道も一度は考えた。しかし定員内になる学士再入学は、い、魅力的で手応えがあるくらい、上記の大阪学会で口頭発表した論文を、今学会誌に掲載する一人数ことになるかと判断したので、「私は」この道をよく執筆中であるが、早稲日に受講した講義内容を、

の執筆に入っています。」私はこれまで、理系の専門より一歳しか年上でないとおっしゃる先生のお顔を拝見すると、私などとても老いさらばえてははいられない。私も先生方に加って、今年開かれる四つの国際会議に、それぞれ講たその領域の学会に人會し、三月に大阪で開かれたその学會で、三十分の研究発表をし「仏」の講義を選んで、その

てきた。実に活氣溢れる、異色の学会だった。だから今一年生として受講しているのは、いずれも文科系の講義である。講義をして下さる先生方は、心聴講するという心構えをお互いが挨拶することで表わすことから始めるべきだといふ趣旨のことを話されたので、開かれないことになりました。

いことであつたと思つていま  
す。昨年四月に、東京大学名  
譽教授の――その後法務大臣  
になられた――三月章先生を  
迎へて、法学部で新入生の為  
に講演会を開きました。その  
際、三月月先生は、大学の  
ところ、学生諸君も賛成して  
ゼミを急遽開くことにしたの  
です。私も以前からそう思つて  
いたので、私のゼミの学生諸  
君にこの三月月先生の説かれ  
たことを話し、これから希望  
が寄せられました。そこで、  
民事訴訟法の講義が  
終了した後に、何とか後期で  
私のゼミを開いてほしいとい  
う希望が寄せられました。そ  
うして、その熱意に動かされて、  
昨年の十月から、一人ほどの  
学生諸君を相手にして、特別  
ゼミを急遽開くことにしたの  
です。

教官が教室の教壇に上がって、この挨拶を一年間続けます。これは、カリキュラムも同じ様に頭を下げて挨拶をすることができました。私にに組んでいないゼミなので、さすがにきんとうけじめをつけた形ですね。熱心に報告と討論を行なうこともできたことで、これも私に良い思い出に残る事柄となつていいます。更に、昨年の秋から、学生も良い思い出となつてい

ますが、これはいわば武道 諸君の要望で、特別ゼミを開くことにこれをから真剣に稽古をこころをしました。前述の昨年の民事訴訟法の講義は三年生の対象としたものでした。生を対象とした学生諸君で、それを聴講した学生諸君が四年になった時には私は定年退職することになったと思つていま

薬学部 橋本嘉幸教授

し特急ひばりで上野駅から 断片のプローブを用いて、対  
四時間あまり、仙台駅に到着 応する遺伝子DNAを適格に  
学部公用車の迎を受けて青葉 同定することが可能になり、  
山の薬学部へ。それから退官 これを応用しての臨床遺伝子  
の十九年、今思ふところ 診断も行なえるようになって  
という間であった。でもこの 断る。

う。 昨年度、薬学部に大学院独  
立専攻「分子生物薬学専攻」  
が誕生した。薬学も今、近代  
自然科学の流れに沿った教育と  
研究を軌範とした再構築の時  
が来ている。思ふところ、今可  
分かってしまえば簡単なこと

あいだの生物科学の発展をみると、隔世の感がある。昔任とした当時はようやく遺伝工学といふ言葉が学会やマスコミに登場した時期であった。一九七五年（昭和五十年）の成し、その抗体を用いて癌細胞の解析を行なっていた。か

大学に赴任した当時の研究が多いは、正常細胞と癌細胞における形質の違いを免疫学的に解析する為に、癌細胞でウサギを免疫して抗体を作ることである。それが今ではかなり以前から抗体（γグロブリン）はリンパ球によって造られることがわかってきた。発想の転換ができるかきながら、独創性を支配している部の進展を願っている。

でも東北大学薬学の一人として薬学的发展和東北大学薬学部の発展を願っている。

理学部助手に  
本多研究奨励賞

時代になった。

それまでの生物科学においては、再現性のない研究報告も少なくなかった。これは、技術的な制限により、生物現象を視覚的に捕らえるのに留まり、現象を支配する物質、分子を規定することが困難であつたことによると思われる。これに反して、遺伝子技術の

抗体を造るリンパ球を試験管内で培養できれば目的とする抗体を、純粋に、多量作成することができると考えて試みたこともあつたが、リンパ球を増やすことはできなかった。赴任した翌年のある日、雑誌ニイチャーを見たら、その掲載論文の一つに試験管

金属学の研究に業績のあつた人に贈られる本年度の本多記念研究奨励賞に、本学工学部助手成島尚之氏(三一)が選ばれた。十八日に、東京都丸の内日本工業倶楽部で贈られた。研究成果に加え研究者の将来性を重視した賞の為、受賞は成島助手が上二一歳以下の研究者を対象と云ふ。

クスの高温酸化に関する研究」が評価された。

本多記念研究奨励賞は、金部材料研究所を開設した本多光太郎博士を記念して設けられ、

発展は生物現象を遺伝子で捉え、遺伝子のコードする物質、産生細胞からの抗体作成の論を間違ひなく規定することを可能にした。現代は過去の後にこの論文の仕事が中心と「誤りのある」(error free) になってノーベル賞を受賞したの科学の時代から「誤りのなけり」(error free)の時代に変わってミルシュタインのモノクローナル抗体作成法の報告したといえよう。最近では「誤り」(error) である。もちろん素晴らし

P R C (Public Relation Center) 法の導入により、いう着想さえあれば我々でも「ごく微量のDNA又はRNA」できなかったことではない。

い仕事であるが、細胞融合と

京都七野の東京国立博物館で「国宝法隆寺展」が開催され、重要な仏教美術が一堂に展示されています。また、金堂にあったのNHKから頂きましたこの勢至菩薩像が、フランスのキ展覽会の招待券（五月二十日メ美術館から甲帰りに展示さまで有効）先着三名様にブレれています。



このように今回の特別展は、

この展覧会は、十四年にわ

法隆寺の仏教美術にふれるま

宝・重要文化財を中心に、貴

里学部（2面記事）



来年に院重点化完成の期

たる「法隆寺昭和寶財帳」調たない機会となるでしょう。査の完了を記念して行われた招待券をご希望の方は、担当・人念持仏厨子「国宝」とい午後十時まで）までお電話く、秘仏（聖德太子及び持者



来年に院重点化完成の理学部（2面記事）

# 理学部助手に

本多研究奨励賞

「国宝法隆寺展」(東京)

日)まで、東像(国宝)などの著名な国

まで有効）外着三名様に預けています。ゼントします。このように今回の特別展は

この展覧会は、十四年にわたる法隆寺の仏教美術にふれるものたる「法隆寺昭和寶財帳」調査の完了を記念して行われていた。門外不出の「仏橋大松戸（電話二九一九五四）人念持仏厨子」（国宝）といふ飛鳥時代の工芸の傑作を始めた。秘仏・聖德太子及び持者

深夜のホテルは社員一人、バイト二人で担当

[illegible]

ことになって、月末に来月の予定が決まる。ただ、入った最初の一月は見習いということで、見習いの入る日というし、新聞・奥にも上げる。そして仮眠室のシーツを敷き、まで眠らないような生活をしてとか言い合わせがあるから、ロビーに夜十時になると、私は上りに出でブランドを下ろして寝た。ただ初めの頃は、客室で寝てもなかなか眠れなかった。やはり普段、眠たくなる

時半には早番の女性社員もやってくる。その後はチェックア  
ウトをずつとこなして八時  
になった終わりになる。今は  
休み期間だが、学校がある日  
になる点で、相当効率的では  
ないし何回もやっていくうち

時半には早番の女性社員もや  
だ。ただ覚えることがそれこ  
た。そして当然私は注意を受  
みにこのバイトのバイト代は  
一晩七千円だ。これは見習い  
も二年目の後輩の人も同額だ

（寄稿）

遠藤教官の論文について  
(寄稿)

「自由」。

その言葉の輝きは、土上の石ダイヤモンドにも劣らな

し。しかも、その輝きは永遠

無限だ。

しかし、私達は真実の自由

というものを、はたして理解

しているのだろうか。

私は、それを「他人から干

渉されない力」と考えている

が多いのではないかと思う。

これに関する私の考えは、違

い。

私達は現在、自由だ。でも、それは与えられた自由、つまり受動的な自由にすぎない。真実の自由とは言えないのだ。本来、自由は与えられるものではなく、能動的なもの、いかにすれば、自分で自分が自由だと自覚し、行動するものではないだろうか。

つまり、「私達」は「自由米、本当の意味での自由を失

だ」ではなく、私達「が」自

由だ」と言えるようにならな

ければならないし、そうある

心は自由の灯（とも）しび

私には、みなさんに、もっ

自由というものを考えても

いた。

日先の与えられた肉体的

由にごまかされないで、ど

な立場になっても精神的自

を一つ存在になってもいい。

そうしなければ、私達は

自由を失

い。

（奇稿）

一番恐いのは客へのミス

が快適なのだが、同部屋の人近したミスを挙げると、常連慣れというものには恐ろしく、  
に寝言を聞かれるのが難点だ。の客の部屋へ新聞をサービス。今となつては平気で遣つて、  
〔編集部注〕筆者は学寮の相した。しかし、それを料金とする。私はまだもう少しはこ  
部屋住まい。して打ち込んでしまったのだ。バイトを続けるだろう。ま  
この仕事は、はつきりいっ 幸いそれは社員が気付き、領 までもに働けるようになつたわ  
て楽だと思ふ。それともかなり 収書に載らないように訂正し らやめてもいいと思う。ちや  
だ。ただ覚えることがそれこ た。そして当然私は注意を受 みにこのバイトのバイト代は  
「腐るほど」あるので、慣れた。それが、他の接客業で 一晩七千円だ。これは見習  
れるまでが大変かもしれない。もそうだが、言葉遣いは丁寧 も二年目の後輩の人も同類だ  
しかしコンピュータを使つて にしななければならない。ただ  
いる点で、相当効率的ではあ これは何回もやつていくうち  
(寄稿)